



SUPPORTING
CHINA
BUSINESS

LT CONSULTING GROUP

2011年3月14日

「LT会」会報第11-04号（総81号）

リストラ・値引き 比亞迪汽車（BYD）は大丈夫か？

上海良図商務諮詢有限公司

中国の現地新聞などの情報によると 昨年中国 EV 自動車のリーディングカンパニーだった比亞迪汽車（BYD）が大幅な人員のリストラを行なっている。

比亞迪汽車（BYD）は広東省シンセンに拠点を置く中国の新エネルギー自動車メーカーであり、自動車ボディ製造用の大型金型を手がける日本の金型メーカーオギワラの館林工場を2010年4月に買収したこと、米著名投資家ウォーレン・バフェット氏の関連企業であるミッドアメリカン・エナジー・ホールディングスが2008年9月に比亞迪汽車（BYD）の新株10%を取得したことでポジティブな話題を呼んだ。

ところが、今年に入って、比亞迪汽車（BYD）のネガティブの話題が市場に出回っている。人員削減計画は今年の春節前より始まっており、「A2」と呼ばれる販売部門では300人以上いた従業員が企業内研修を経て107人までに減らされたという。「A2」は比亞迪汽車（BYD）販売の重要部門で湖北、湖南省等を担当しているが、昨年、大きく掲げた販売目標を達成するため増員し、結局だぶついていた販売要員をリストラしたものである。

他にも販売する車がまだ生産されていない販売網を持たない部門への異動などにより実質的な給料を削減されている従業員もいる、という。

2010年の当初販売目標は80万台であったが2度にわたる下方修正を余儀なくされた上に最終目標の60万台をも下回る約52万台の販売実績に終わった。

また 人員のリストラと同時に販売車両の値引きも行なわれてきた。

しかしながら 値引きは実際にはディーラーがコストを負担しており 昨年の3月より是に不満を持つ 湖南、浙江、北京、成都、鄭州 等の有力なディーラーが傘下から抜けている。

2011年1月の乗用車販売データによれば中国全国の自動車販売量は記録を塗り替え17%増となっているが比亞迪汽車（BYD）は15%増で全国平均販売伸び率を下回った。2010年の販売量は15.5%増であったが販売費用は3倍になっている、と関係者は述べている。

今年の販売目標は前年比10—15%増、と設定しており販売費用を増やしても出荷台数を増やしたいのは資金力を確保するため、と見られる。

比亞迪（BYD）グループの2010年の銀行借入は約64.68億元であり、これは2009年の36.45億元と比較して倍近いものとなっている。またディーラーから預かる保証金もかなりの金額にのぼる。ディーラー一軒あたり500万円前後の保証金があるとされ、データによれば現在全国に約1,000軒のディーラーがいる、という。

比亞迪汽車（BYD）は2月18日には正式に値引きキャンペーンを宣言し 車種によって5,000元（約63,000円）から15,000元（約19万円）値下げしている。しかし 製品の値下げはさらなるディーラーの不満を呼ぶ、と見られ悪循環を引き起している。

もちろん 比亞迪汽車（BYD）はその財務状況は極めて健全であると述べているが・・・？

今後新エネルギー車両の研究開発、新車開発のための資金が底をつくのではないかと、余計な心配かも知れないが 危惧している。

以上